

はじめに

最近の社会情勢を見ると、先が見えない不透明かつ混迷の時代と言え、これからの21世紀を見据えた時、変動の激しい社会を生きる子どもにとって、どのような学校が必要とされているのか、真剣に考えなければならない時期に来ています。私達は、子ども一人一人の存在が、周りに向かって自発的に働きかけることにより、子ども（「個」）同士が相互に作用し合い、「全体」にも影響を及ぼし、それがまた「個」にフィードバックされ、新たな「個」、新たな「全体」が生まれ出されていくような学校。すなわち、子ども一人一人が積極的に「個」や「全体」に働きかけ、かかわり合いながら、新しい自分を創っていかうとする活力あふれる学校をめざして、今年度から研究主題「創発のある学び舎」に取り組むことにいたしました。また、この「創発のある学び舎」を実現するためには、先ず子ども一人一人が周りにある「ひと・もの・こと」と積極的にかかわり、自分と対話しながら自分のよさや可能性を見つけようとする姿（＝「個」の確立した姿）が大切であると考えました。そこで、副題を『「個」の確立をめざした学びの場の構想』として今年度より実践的に取り組んでおります。

教科学習については、これまで、各教科・道徳の「本質」および「基礎・基本」を明らかにし、自己の学びを深めるための手立てを考察し、実践してきましたが、今年度も引き続きこの研究を深めると共に、子ども一人一人が「本質にもとづく基礎・基本を自ら身につけていく姿」をめざして、具体的に獲得すべき内容や資質・能力の明確化に取り組んでいます。

総合的な学習の時間については、本校はこれまで、今日的課題性のある内容で構成する3領域（「環境」「人間」「文化」）と2分野（「英語活動」「情報教育」）を設定し実践してきましたが、さらに今年度より「かしわ選択ゼミ」の時間を加えました。「かしわ選択ゼミ」の名は、本校の校章「柏葉」にちなんで付けたもので、「共に生きる社会や環境に自ら働きかける姿」を願っています。この活動では、教師の持つ専門性や得意なことがらを生かしたテーマを子ども自らが選び、好奇心や探究心を広げ、教養を育む場としました。

特別活動については、本校の子どもたちは居住地域が金沢市全域に広がっており、学校生活以外での子ども同士のつながりが薄いことから、異学年たてわり小集団活動を積極的に活用いたしております。今年度はさらに一歩進めて、子ども一人一人が「自分たちの学校生活を自らより豊かで楽しくしていく姿」に迫るため、従来の委員会活動を廃止し、子ども自身が学校に望む新しい活動を立案、企画し、自らの責任のもとに活動する場といたしました。なお、この活動の名称も児童から公募し「プロジェクトふぞく」と称することにいたしました。

また、「学び」の場においては自己評価活動を導入し、工夫をこらした自己評価カードや評価活動方法を模索しております。それは、自分を見つめ、自分と対話していく中で、自分のやりたいこと、なってみたい自分を見つけ、それに向けて努力し、自分のよさや可能性に気づき伸ばしていくようとする姿に迫るためには自己評価活動が有効に働くと考えたからです。

以上、この一年間の研究成果をこの紀要にまとめました。ご高覧いただき、忌憚のないご意見、ご批判を賜りたいと存じます。末尾になりましたが、本校の教育実践・研究に貴重なご指導、ご助言を賜りました金沢大学ならびに関係諸機関の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成14年11月14日

金沢大学教育学部附属小学校
校長 三好義昭